

第 87 回 IEC カイロ大会（バーチャル開催）参加報告

IEC 活動推進会議 事務局長
小坂 英明

第 87 回 IEC 大会が、2023 年 10 月 22 日～11 月 2 日にバーチャル(フルリモート)開催されました。本大会はエジプト・カイロにて開催される予定でしたが、近隣地域で発生した事案に鑑み、開催直前に急遽リモート開催に変更されました。

表 2 に示すように大会の参加者登録数は 1,977 名を数え、対面開催された昨年のサンフランシスコ大会に匹敵する規模となり、国別にみると、日本は中国に次ぐ 162 名の登録がありました(表 3)。

表 1 に示すように、大会期間中に総会(GA: General Assembly)をはじめ、評議会(IB: IEC Board)、標準管理評議会(SMB: Standardization Management Board)、適合性評価評議会(CAB: Conformity Assessment Board)、市場戦略評議会(MSB: Market Strategy Board)などの IEC 上層の各委員会や、NC (National Committee) Presidents' Forum、IEC Forum、Asia Pacific Cooperation Forum(APCF)など各種の会議、イベントが実施されました。



図 1 IEC カイロ大会の開催予定場所（大会用壁紙より）

[表 1 主要会議日程]

日付	会議（YPイベント除く）	欧州中央時間	日本時間
10/19	SMB CAG	13:00-16:30	20:00-23:30
10/20	SMB CAG CAB CAG	13:00-16:30 13:00-17:00	20:00-23:30 20:00-24:00
10/22	MSB SMB CAB	12:00-17:00 13:00-16:30 13:00-17:00	19:00-24:00 20:00-23:30 20:00-24:00
10/23	IEC Forum SMB CAB	11:00-13:30 14:00-17:00 13:00-17:00	18:00-20:30 21:00-24:00 20:00-24:00
10/24	IB	11:00-16:00	18:00-23:00
10/25	NC Presidents Forum	12:00-13:30	19:00-20:30
10/26	General Assembly	11:30-15:30	18:30-22:30
10/27	General Meeting Open Session MSB Seminar	10:30-13:00 13:30-15:30	17:30-20:00 20:30-22:30

[表 2 近年の IEC 大会参加登録者数]

開催年	開催場所	参加登録者数	うち、日本	備考
2014 年	東京	2,367	731	
2015 年	ミンスク	1,289	110	
2016 年	フランクフルト	3,227	410	
2017 年	ウラジオストク	1,381	194	
2018 年	釜山	3,375	471	
2019 年	上海	3,614	494	
2020 年	ジュネーブ(リモート)	790	34	リモート開催
2021 年	ドバイ(ハイブリッド)	890	37	ハイブリッド開催
2022 年	サンフランシスコ	2,218	306	
2023 年	カイロ(リモート)	1,977	162	リモート開催

[表 3 今大会の国別登録者数(上位)]

国別参加登録者数(上位 10 カ国)			
1. 中国	397 名	6. フランス	75 名
2. 日本	162 名	7. 英国	50 名
3. ドイツ	111 名	8. イタリア	43 名
4. 米国	106 名	9. カナダ	38 名
5. 韓国	97 名	10. ロシア	33 名

本稿では IEC の最高意思決定機関である総会 (General Assembly) の概要を報告いたします。

1. IEC 次期役員及び上層委員会委員(選挙結果等)

次期 IEC 副会長兼 CAB 議長 (2024~2026) として、米国の Steven Margis 氏が立候補し、信任されました。また、IB および BAC 委員の選挙、SMB および CAB 委員については自動選出国 (財政グループ A) メンバーの承認、および選挙が実施されました。日本からは、CAB 委員として高橋氏 (富士電機) が再任されました。(表 4 参照)。

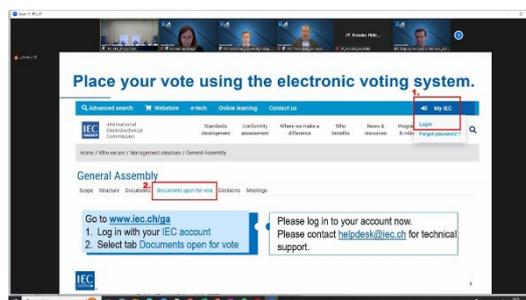


図2 総会の様子 (投票)

[表 4 総会での選挙結果(いずれも任期:2024 年~2026 年)]

ポスト	氏名(国)
IEC 副会長兼 CAB 議長	Mr. Steven Margis (米国)
IB 委員 (5 名:選挙)	Mr Jeongjoon Lee (韓国) Mr Ian Oppermann (オーストラリア) Mr Juan Rosales Salazar (メキシコ) Mr Pramod Kumar Tiwari (インド) Mrs Stina Wallström (スウェーデン)
BAC 委員 (2 名:自動選出)	Mr Eric Laurençon (フランス) Mr Michael Teigeler (ドイツ)
BAC 委員 (3 名:選挙)	Mr Torben Dalsgaard (デンマーク) Ms Kyoungjin Chang 韓国 Mr Abdulrahman Alabdulkarim (サウジアラビア)
SMB 委員 (3 名:選挙)	Mr Rajeev Sharma (インド) Mr Daehyun Kwon (韓国) Ms Beatriz Novel (スペイン)
CAB 委員 (2 名:自動選出)	Mr Thorsten Arnhold (ドイツ) Mr Hiroshi Takahashi (日本)
CAB 委員 (5 名:選挙)	Mr Peter Lee (オーストラリア) Mr Calogero Lana (ベルギー) Mr David Briere (カナダ) Mr Thijs Van Zanten (オランダ) Mr Khalid Alnamlah (サウジアラビア)

2. 財務関連

2022 年度監査済み IEC 法定財務諸表、2024 年度予算案・各国分担金等について承認されました。なお、IEC の会計報告は今年度より IEC 全体(4 つの CA システムを統合した”1IEC“ルールに基づく)連結決算となっています。

IEC	2022	2021	Change %
Operating Profit	45,000	31,000	+45%
Operating Expenses	21,000	29,000	+48%
Operating Profit before tax	31,000	21,000	+48%
Operating Profit after tax	31,000	21,000	+48%

図3 総会の様子 (会計報告)

- ・2022 年の連結総収入は 32.9 百万スイスフラン(約 48.7 億円)で予算に対し+6.4%。連結総支出は 29.8 百万スイスフラン(約 44.3 億円)で、前年比 +8.0%。収支としては 3.1 百万スイスフラン(約 4.6 億円)の黒字で、前年比-6.3%となりました。
- ・2024 年の連結総収入は 33.0 百万スイスフラン(約 48.8 億円)で、前年比+9.6%、連結総支出は 36.1 百万スイスフラン(約 53.4 億円)で、前年比+7.8%)、収支としては-3.2 百万スイスフラン(約-4.7 億円)で、赤字となりました。
- ・2024 年の分担金は 2023 年比で 3%増額とし、各正会員の分担割合は 2023 年と同率で承認されました。日本は最大負担国(財政グループ A)として、8.18%(日本円で 1.41 億円相当)を負担します。

3. 今後の IEC 大会開催予定国(都市)

2024 年の IEC 大会がエジンバラ(英国)にて 2024 年 10 月 21 日から 25 日に開催されることが再確認され、プロモーションビデオ上映、同大会への招待のご挨拶がありました。

2025 年の開催地については、イスラエル NC から要請により、ホスト申出の今大会での決議は見送られました。また、2026 年についてはドイツNCよりハンブルグでの開催申出がありました。(表 5 参照)。

[表 5 2024 年以降の IEC 大会開催予定]

開催年	国(都市)[開催期間]
2024 年	英国(エジンバラ)10/21~10/25
2025 年	未定
2026 年	ドイツ(ハンブルグ)11/16~11/20

■ 所感

今大会は近隣地域で発生した事案により急遽リモート開催に変更されましたが、総会(General Assembly)自体はつつがなく進められ、来年の活動につなげることができました。

また、大会期間中に開催された SMB 会議において、トーマス・エジソン賞受賞者の紹介があり、4 名の受賞者の一人として TC 122 幹事である一般財団法人電力中央研究所の財満様が紹介されました。本賞は特に技術専門委員会(TC)分科委員会(SC)や認証システムの運営に焦点を当て、当該分野での多大な貢献・業績を挙げた個人に対して、毎年最大 9 名を表彰するもので、日本からは 9 年連続の受賞となり、IEC における継続的な日本の貢献の高さが示されました。

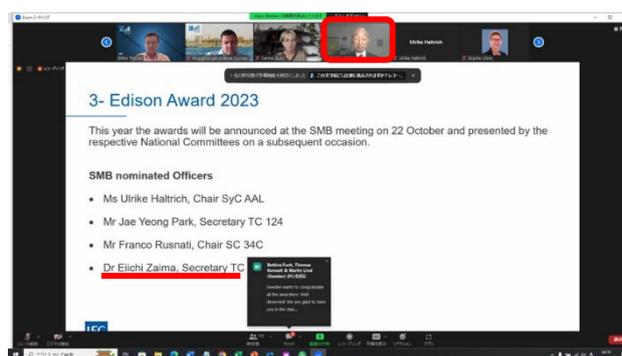


図4 トーマス・エジソン賞紹介

最後に、IEC Forum、IEC Academy & Capacity Building や Digital session Smart myth-busting など、大会期間中に併催された様々な会議、イベントにリモート参加した感想として、AI や DX などの破壊的イノベーションが IEC の標準化活動に及ぼす影響についての真剣かつ活発な議論が行われていることを実感し、IEC-APC 事務局として日本の IEC 活動支援のレベルアップを図るためにも、継続的に情報のキャッチアップを行っていく必要があると感じました。

以上